

埴輪データベースの作成

高橋 美久二（館長補佐兼資料課長）

1. はじめに

当館では、平成3年度には考古資料の特別展として、「京都府のはにわ」を計画している。そのために、平成元年度から少しずつ埴輪地名カードを作成してきている。今年度はそのカードをパソコンに入力し、データベースを作成して、展示のための資料とすることを意図した。この報告は、そのデータベース作成の過程と、その成果を活用して埴輪の分布などを考えてみたものである。

2. 埴輪地名カードの作成

埴輪の資料を全国的に集成して報告されたものは、第17回埋蔵文化財研究会の資料集『形象埴輪の出土状況』^(註1)（以下『資料集』と略記する）がよく知られている。これは、全国の府県の埋蔵文化財担当者から出された資料を、その時の研究会の会場となった橿原考古学研究所で編集されたものであった。各府県内の古墳をもっとも熟知している各担当者が作成された資料であるために、その内容は正確で、まことに貴重な資料集である。ただ、残念なのは短日時に編集されたものであったために、府県によって精粗があることと、全都道府県が網羅されていないことであった。府県によって精粗ができたことについては、研究会のテーマが「形象埴輪の出土状況」であったために、資料集用の資料も形象埴輪の出土状況の判明する資料だけの地名表を作成した府県と、形象埴輪が出土した全古墳の地名表を作成した府県とがあったためであろう。また、全国の都道府県のうち埴輪の無い沖縄県や北海道はともかく、長崎、高知、岐阜、長野、山梨、富山、新潟、神奈川、東京の各都県や東北6県の資料があがっていな

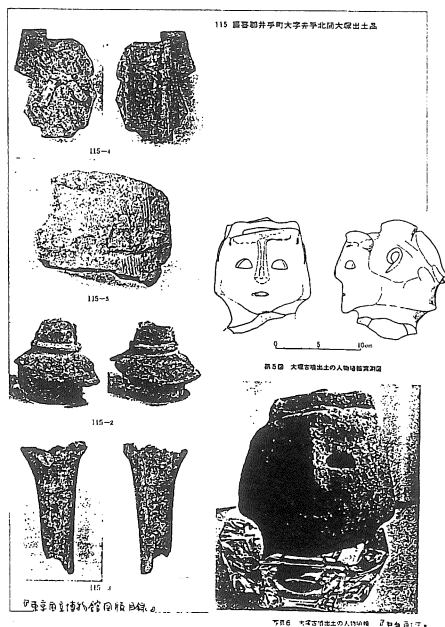
い。この研究会が任意の自主的なものであるためにやむをえないこととはいえ、個人の努力では到底集成しえない貴重な資料集であるだけに残念であった。まず、この『資料集』をベースに1遺跡1枚の資料カードを作成することからはじめた。また、その後刊行されたもので、埴輪地名表が掲載されているもの^(註2)などで若干の補充を行ったが、完璧ではない。

ところがこの『資料集』には、京都府内の埴輪出土古墳はわずか25カ所しかあがっていない。これは、前述のように京都府の資料作成担当者が形象埴輪の出土状況が判明する資料だけを集めたためである。そのために、京都府内の資料集めは最初からスタートしなければならなかった。京都府教育委員会作成の『京都府遺跡地図』^(註3)（第2版）を基本資料に、京都府内の遺跡の調査報告書にあたって、円筒埴輪片が1片でも出土していれば1遺跡としてカードを作成していった。カードの書式は当館ですでに印刷してあった考古資料収蔵カード（第1図）をそのまま利用して作成していった。このカードはB5判の縦型のもので、裏面に該当の収蔵資料の図を描いたり写真を添付したりするようになっているので、そこに報告書などに載っている埴輪の実測図や写真のコピーを貼っていった。

今回作成するのは埴輪のデータベースなので、埴輪が出土した古墳に関する情報は最小限に限ることとした。とくに、古墳の外形、規模、外部施設、内部構造、副葬品など古墳に関する情報で必要なものは多いが、欲張り過ぎるといつまでも完成しない可能性があるからであった。

考古資料調査収量カード

名称	埴輪	人物	18	年次	26343008
発掘	京都府京都市	2	18	18	18
発掘者	京都府立総合資料館				
調査	京都府立総合資料館				
所在地	京都府京都市中京区				
古墳名	北土塚古墳				
所在地	京都府京都市中京区				
古墳時代	後期				
墳形	丘陵墳	墳形不明	円墳		
主軸	主軸は横穴式石室、石材は相模産、石室は南向き。				
直径	直径5.4m、幅1.8m。				
出土品	埴輪(普通)、器財(穀)、人物(土師、土師)				
出土品	須恵器-杯皿				
出土品	土師製の外に所有著 菅不在(あり)、他、27年6月16日				
出土品	5/11				
調査	1990.2				
調査者	高橋圭二				



第1図 埴輪地名カード(左-表、右-裏)

3. パソコンへのデータ入力

できあがった資料カードをもとに、順次パソコンに入力していった。入力した項目は、遺跡番号、枝番号、古墳名、所在地、府県名、旧国名、旧郡名、墳形、規模、埴輪種類、編年、参考文献である。このパソコンへの入力の時の書式(第2図)は資料カードとは異なっているが、入力していくにはほとんど支障はなかった。

遺跡番号は、京都府内の古墳の場合は、『京都府遺跡地図』所収の市町村毎の遺跡番号(3桁)の上に、自治省コードの市町村番号(3桁)と府県番号(2桁)とをつけて、8桁の数字とした。京都府以外では、府県番号と『資料集』の府県内の通し番号をあわせて、8桁の数字とした。

枝番号は、『京都府遺跡地図』では古墳群に一つの番号が与えられているだけで、その中の第何号墳を表す場合は枝番号で与えられているためである。

古墳に関する情報は、資料カードよりさらに少なく、墳形と規模だけを入力することとした。規模も前方後円墳なら全長、円墳なら直径、方墳なら辺長だけを入れた。

埴輪種類では、できるだけ具体的に、しかも集計を行いやすいように検索の便を考慮して入力することとした。そのために、埴輪をまず円筒埴輪、家形埴輪、器財埴輪、人物埴輪、動物埴輪、その他に大きく分けた。円筒埴輪のうち普通円筒埴輪と朝顔形埴輪があれば、円筒(普通、朝顔)と具体的な内容を持って書きで書き込んだ。さらに普通円筒埴輪で鱗付きやへら描きの記号や絵があればそれも書き入れた。同様に家形埴輪では、切妻や入母屋などの屋根の形毎の棟数もできるだけ入れるようにした。器財埴輪も内訳をかって内に、蓋3、盾5、鞞2、短甲3などとできるだけ具体的に種類と数を書き入れた。人物埴輪や動物埴輪も同じようにその内訳を具体的に書き入れた。その他の埴輪では、小型の土製品、木製埴輪、埴輪円筒棺などを対象として、具

全国埴輪地名表

遺跡地図番号	26343008	枝番号	
出土古墳名	北大塚古墳		
所在地	綴喜郡井手町井手小字大塚		
府県名	京都府	旧国名	山城
		旧郡名	綴喜郡
埴輪種類	円筒	規模	
	円筒（普通）・器財（鞆）・人物（女）・動物（足の破片？）		
編年	5		
参考文献	14・163・1020・3431		

第2図 埴輪地名カードの入力様式

体的にその内訳を書き込むようにした。このように書き込んでおくと、大分類でも中分類でも検索できて、各種の集計が容易にできるからである。この項目が最も使用頻度が高いことが想定され、いろいろの使い方ができるように工夫してみたつもりである。

編年は、川西宏幸氏による円筒埴輪を5期に区分する編年^(注4)を数字で記入した。そのおおよその年代は、1期が4世紀中頃、2期が4世紀後半、3期が5世紀前半、4期が5世紀中頃～後半、5期が6世紀である。過去に報告されたものや、分布調査などで数点の埴輪の断片しか採集されていないものなど、時期不明のものも多いが推定で入れたものもかなりある。また、実物があっても3期と4期の区別がしにくいものもかなりあり、これらは3・4期としてどちらでも検索できるようにした。ただし、この項目は京都府のカードにだけしか入力できていない。

参考文献の項目は、京都府のカードには『京都府遺跡地図』の巻末に付載されている「京都府埋蔵文化財関係文献目録」の文献番号を

記入し、パソコンへの入力もこの番号を入れた。これは、この文献目録はすでにデータベース化されているからである。京都府以外のカードでは、所載の書籍名などを簡単にして入力した。文献目録は別のデータベースを作ってそれと連動させるべきものとの考えからである。

カードの準備ができ、入力の項目も決めていよいよ入力しようという段階で、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターの小山雅人氏が、同センターの10周年記念論文集のために、京都府の埴輪地名表を作成してワープロに入力しているという情報に接した。そのため、小山氏にお願いしてそのデータベースを提供してもらい、それを同センターの土橋誠氏に、パソコンのデータベースに変換してもらって利用することとなった。したがって、京都府分の約260件のデータベースは小山氏作成のものに若干の加筆訂正を施した。こういった協力のおかげなどにより、平成2年度中に約1800件余のデータベースを入力することができた。

4. 埴輪データベースの成果と課題

ここでは、作成したデータベースによって、埴輪出土遺跡地名の一覧表やそれともなう文献目録を報告するべきものであろうが、入力が終わったばかりで、十分な校正が済んでいない。そのために、一覧表などは平成3年度の展示図録で公表することとしたい。校正が十分でなくても統計の数値などによって、埴輪出土遺跡のおおよその傾向などをつかむことは可能であろう。そこで、埴輪データベースを利用して、埴輪出土古墳の特徴や傾向などを考えてみたい。

付表1は京都府内の埴輪出土古墳を時期別、地域別（旧国別）に集計したものである。埴輪出土遺跡は京都府内で272遺跡で、古墳総数9150基の約3%にあたる。古墳といえば埴輪を連想したり、葺石、段築と並んで古墳の外部施設の3要素といわれる埴輪なのに、実は古墳全体からみればごくわずかの古墳にしかな用いられていなかったのである。埴輪出土遺跡は、古墳総数の少ない山城に多く185遺跡で、府内の68%を占め、丹波19%、丹後13%となる。山城では1期から埴輪が出現し、5期に至るまで次第に増加していくのに対し、丹波では2期によく1遺跡でみつき、4・5期で急に増加することがわかる。丹後では逆に、2期に突然最も多くなり4・5期で急に減少していく。丹波と丹後では古墳時代前半と後半では、立場が逆転することがみてとれる。

付表2は京都府内で形象埴輪を出土した遺跡を、種類別、時期別に集計したものである。形象埴輪を出土した遺跡は130遺跡で、埴輪出土遺跡の48%にあたる。この数字は逆に円筒埴輪だけの遺跡が52%であることを物語っている。形象埴輪で最も多いのが家形埴輪で、52%にあたる67遺跡でみつかっている。家形埴輪は1期から出現し、4期まで次第に増加するが、5期には減少する。この傾向は蓋形

付表1 京都府の円筒埴輪

	山城	丹波	丹後	合計
	(%)	(%)	(%)	(%)
1期	5 (2.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (1.8)
2期	19 (10.0)	1 (1.9)	9 (26.0)	29 (11.0)
3期	26 (14.0)	5 (9.6)	7 (20.0)	38 (14.0)
4期	42 (23.0)	16 (30.8)	3 (8.6)	61 (22.0)
5期	44 (24.0)	17 (32.7)	2 (5.7)	63 (23.0)
時期不明	49 (26.0)	13 (25.0)	14 (40.0)	76 (28.0)
合計	185 (100.0)	52 (100.0)	35 (100.0)	272 (100.0)

埴輪、盾形埴輪、靱形埴輪などの器財埴輪などとも共通である。

埴輪の中で最も親しまれている人物埴輪は、京都府内で20遺跡でみつかっている。これは、埴輪出土遺跡総数の7.3%にすぎない。1～3期には無く、4期に現れ5期に激増する。人物埴輪は丹後では未だみつかってはず、丹波では福知山市稲葉山10号墳、綾部市以久田野17号墳、同上杉1号墳、丹波町塩谷5号墳、山城では京都市穀塚古墳、同鳥羽離宮106次

付表2 京都府の形象埴輪

	家形	蓋形	盾形	靱形	動物	人物
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
1期	3 (2.3)	1 (0.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.8)	0 (0.0)
2期	7 (5.4)	3 (2.3)	3 (2.3)	1 (0.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
3期	19 (15.0)	15 (12.0)	12 (9.2)	7 (5.4)	4 (3.1)	0 (0.0)
4期	22 (17.0)	16 (12.0)	13 (10.0)	7 (5.4)	13 (10.0)	2 (1.5)
5期	12 (9.2)	11 (8.5)	8 (6.2)	5 (3.8)	12 (9.2)	16 (12.3)
時期不明	4 (3.1)	3 (2.3)	2 (1.5)	0 (0.0)	2 (1.5)	2 (1.5)
合計	67 (52.0)	49 (38.0)	38 (29.0)	20 (15.0)	32 (25.0)	20 (15.4)

下層古墳、向日市物集女車塚古墳(?)、長岡京市舞塚1号墳、宇治市二子塚古墳(?)、同坊主山1号墳、城陽市赤塚古墳、同冑山1・6号墳、八幡市西二子塚古墳、田辺町堀切7号墳、井手町北大塚古墳、木津町白山古墳(?)、同音乗谷古墳、同上人ヶ平5号墳、和束町大杉古墳で出土している。穀塚古墳と赤塚古墳、同上人ヶ平5号墳が4期であとはすべて5期か時期不明である。

動物埴輪には、鶏形、馬形、水鳥形、猪形などがある。その変遷は、動物の種類によって異なる。鶏形埴輪は、家形埴輪や蓋形埴輪などと同じく1期の山城町平尾城山古墳に現れ、5期までつづく。その他の馬や猪などの動物は、人物などと同様に4・5期に最盛期を迎える。表では、2期に動物埴輪が無いが、この時期には加悦町蛭子山古墳で鶏形・猪形・犬形の土製品が、同作山1号墳で鶏形土製品がある。鹿形埴輪はみつかっていないが、円筒埴輪に鹿と思われる線刻のあるものが、加悦町作山2号墳、福知山市水内古墳、八木町塚本古墳、向日市大極殿古墳、長岡京市神足遺跡などでみつまっているのは興味深い。

付表3は近畿地方の形象埴輪を集計したものと、全国(といっても全国を網羅できていないことは前述のとおりである。)の集計とを比較したものである。京都府の場合は家形埴輪、蓋形埴輪、靱形埴輪などが近畿の平均よりやや多いが、その他の埴輪は近畿の平均に近い値を示している。ところが、全国と比較するとその差はますます大きく、形象埴輪のうち比較的早く出現した家形埴輪や器財埴輪は近畿地方では全国平均より多く、逆に遅くから出現した人物埴輪などは全国平均より、はるかに少なくなっていることがわかる。この他にもこの表から読み取れることは多いに違いない。

このように、データベースの作成によって、目的の埴輪を容易に検

索できるだけでなく、種類毎に集計することによって、地域毎や時代毎の傾向を読み取ることが容易になってくる。

この埴輪データベースを、全国的なものとして利用できるようにするには課題も多い。より精度の高いデータを、全国的に集めることやそのデータを入力していくこと、さらに年々新しくなる最近のデータを追加していくこと、埴輪以外の古墳のデータや画像データなどを追加していくこと、などである。もっとも、そのような欲張ったデータベースにするには、一地域資料館では、しかもパソコンなどでは果たせる課題ではなくなってくる。

5. おわりに

来年度の特別展「京都府のはにわ」のための展示資料を集め、京都府の埴輪地名表を作成するために、さらには京都府の埴輪の特徴を把握するために、パソコンによって埴輪データベースを作成した。その過程や、作成されたデータベースによる成果などを述べてきた。まだ精度の高いデータベースができたとは言いきれないが、それでも使い方によりきわめて便利なものであることがわかっ

付表3 近畿の形象埴輪

	家形 (%)	蓋形 (%)	盾形 (%)	靱形 (%)	動物 (%)	人物 (%)	遺跡数
滋賀県	7 (58.0)	3 (25.0)	1 (8.3)	1 (8.3)	3 (25.0)	5 (41.7)	12
京都府	67 (52.0)	49 (38.0)	38 (29.0)	19 (15.0)	32 (25.0)	20 (15.4)	130
大阪府	76 (32.0)	58 (25.0)	79 (34.0)	24 (10.0)	54 (23.0)	46 (19.7)	234
兵庫県	22 (26.0)	6 (7.1)	10 (12.0)	2 (2.4)	10 (12.0)	7 (8.2)	85
奈良県	92 (50.0)	59 (32.0)	40 (22.0)	6 (3.3)	33 (18.0)	24 (13.0)	184
和歌山県	15 (58.0)	7 (27.0)	10 (38.0)	4 (15.0)	11 (42.0)	10 (38.5)	26
近畿合計	279 (42.0)	182 (27.0)	178 (27.0)	56 (8.3)	143 (21.0)	113 (16.8)	671
全国合計	519 (28.0)	250 (14.0)	311 (17.0)	137 (7.4)	451 (24.0)	566 (30.7)	1841

てきた。課題も多いがより精度の高いものをめざしたい。

最後に、このデータベース作成に当たり、『資料集』作成に努力された全国のみなさん、京都府のデータの充実のために全面的なご協力をいただいた(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターのみなさんとくに小山雅人氏、土橋誠氏、伊賀高弘氏、またご教示などいただいた久保哲正氏、秋山浩三氏、佐藤晃一氏、古川良子氏などに感謝したい。

(注1) 石野博信・中井一夫他編『形象埴輪の出土状況』(第17回埋蔵文化財研究会資料、1985.1)

(注2) 川上紀子「埴輪について」(古市古墳群研究会『古市古墳群とその周辺』1985) 神戸市教育委員会『五色塚古墳整備完成10周年記念—市内の埴輪展—』(『昭和60年度遺跡現地説明会資料』所収、1985.11)、藤沢敦「東北地方埴輪出土遺跡地名表」(福島県立博物館『東国の埴輪』所収、1988.10) など

(注3) 京都府教育委員会『京都府遺跡地図』第1分冊(1988.3)、第2分冊(1987.3)、第3分冊(1986.3)、第4分冊(1989.3)、第5分冊(1985.3)

(注4) 川西宏幸「円筒埴輪総論」(『考古学雑誌』64—2、1978.9)